

## 5. 長期保管についての注意事項

保管場所は、雨水等の入らない、湿気やホコリの少ない場所を選んでください。エンジンについてはメーカーの取扱説明書に従ってください。ここでは、ディーゼルエンジン発電機の一般的な内容について記載します。

### (1) 保管中運転可能な場合

1週間に1回は必ずエンジンを始動させてエンジンオイルを各部にゆきわたらせてください。その際、始動に先立ち必ずスタータでエンジンを空転させ油圧計等で油圧の上がることを確認してください。

### (2) 長期間運転しない場合

- 新しいオイルをオイルレベルゲージの上限まで入れ替えるか、エンジンメーカー指定の防錆油を入れた後、エンジンを定格回転速度で短時間運転して全体にゆきわたらせておく。
- 燃料タンク内の燃料を抜く。必要に応じて燃料メーカー指定の燃料用防錆油を入れ、燃料ラインにゆきわたるまで、アイドリング運転する。(ガソリンエンジンの場合は、燃料タンク更にはキャブレータ内の燃料も完全に抜くこと。)
- ラジエータ及びエンジンブロック内の冷却水を全部抜く。
- ファンベルト等のベルト類は緩めておくこと。
- 錆の発生する部分には防錆処置を行い。運動部分にはグリスを塗布する。
- 本体からバッテリーを外し、十分に充電してから保管する。保管前にはバッテリー端子に防腐処置を施すこと。また、保管中1ヶ月に1度は完全充電になるまで補充電すること。
- エンジン発電機内の清掃を行う。また、発電機本体内、配線及び配線接続部、中継端子板、出力端子板等の充電露出部についてもドライエアーで清掃を行うこと。
- 発電機の絶縁抵抗を測定し記録する。絶縁抵抗値が1MΩ以下の場合には、絶縁復活処置を施し、再度、絶縁抵抗を測定し記録する。
- 発電機の開口部(吸気と排気)とエンジンの開口部(マフラー、エアクリーナは清掃後)を防水テープで密閉すること。
- 湿度が高い場所での保管は、AVR等発電機部品、エンジンオルタネータ、スタータ、リレー類を取外し防水・防塵カバーで密封すること。

### (3) 長期間運転しないエンジンの再使用上の注意

- エンジン発電機内への異物の侵入、配線、発錆状態等の異常の有無を点検する。
- 外したバッテリー及びAVR等をセットする。ファンベルト等のベルト類を規定の張

りでセットする。

- 密封した発電機本体及びエンジン開口部の防水テープを取り除く。
- 冷却水を入れる。
- 燃料タンク及びオイルパンの防錆油を正規の燃料及びオイルに入れ替える。オイルエレメント及びフュエルエレメントは交換する。
- 発電機の絶縁抵抗を測定し、1 MΩ以上あることを確認すること。
- シリンダーヘッドカバーを外し、ロッカーアーム軸受及びプッシュロッドに十分給油すること。試運転に先立ち、必ずスタータで10秒位空転し各部にオイルを循環させること。
- 試運転については、取扱説明書に従い、運転前・運転中の点検を行い機械に異常のないことを確認する。